

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	企画文化局
-----------	-------

基本計画	柱 暮らしを彩る	担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
	大項目 生活に根づき_誇れる文化・スポーツの振興			
	取組みの方針 芸術・文化の振興	連絡先	5 8 2 - 2 1 5 3	

21年度計画

-2-(2)-

施策名	発信力の高い芸術・文化の振興
------------	----------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	音楽、美術、演劇、漫画などの幅広い分野で、地域の芸術・文化のけん引力となる、北九州市発で発信力の高い芸術・文化の振興を図ります。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	芸術・文化の振興

成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度		目標値	
	年度	H20年度		実績	達成度	年度	H25年度
北九州芸術劇場・創造事業入場率	年度	H20年度	計画	-	年度	H25年度	
北九州芸術劇場は、オリジナルの演劇作品等を制作し、公演しているため指標としました。	現状値	83%	実績	95 %	目標値	92%	
			達成度	%			
響ホール事業・響ホールフェスティバル入場率	年度	H20年度	計画	-	年度	H25年	
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を活かしたオリジナリティある企画公演を製作し、公演しているため指標としました。	現状値	68%	実績	56 %	目標値	75%	
			達成度	%			
「北九州市自分史文学賞」の応募者数	年度	H20年度	計画	-	年度	H25年度	
20年に渡り「自分史文学」という独自のジャンルで全国及び海外も対象に情報発信しているものであるため指標としました。	現状値	394件	実績	398 件	目標値	400件	
			達成度	%			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費	264,273 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)			
		うち一般財源	238,732 千円	25,140 千円			

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
	A	演劇分野においては「北九州芸術劇場・創造事業」において、オリジナル作品「江戸の青空～Keep on Shakin'～」を全国で30公演、入場者計1万7千人以上を達成し、他のオリジナル作品でも好評を得た結果、事業全体の入場率は95%を達成しました。 音楽分野では「響ホール事業・響ホールフェスティバル」及び「北九州国際音楽祭」を開催した。響ホール事業・響ホールフェスティバルでは、コンサートの質やプログラムの先進性、オリジナル性などについて高い評価を得ており、国際音楽祭においても内外の質の高いコンサートプログラムを提供したことにより1万1千人以上の入場者を集め、好評を得ています。 さらに、現代美術センターCCA北九州から現代美術に関する情報発信や人材育成、「北九州市自分史文学賞」の継続実施によりノンフィクションジャンルの文学振興に寄与しています。
今後の局施策の方向性	幅広い分野の地域の芸術・文化をけん引するためには、現在実施している各種事業を引き続き着実に推進することが必要となります。一方、事業の実施にあたっては、経済性・効率性を意識して事業規模や実施方法などを工夫する、対象拡大のためのPR活動を充実するなど、改善すべき点は改善を図っていく必要もあります。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価 下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 発信力の高い芸術・文化の振興

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
芸術文化活性化事業(劇場・創造事業、響ホール事業)			141,743 千円	3,660 千円	裁量的経費・義務的経費			ア	
事業費のうち一般財源			141,310 千円						
北九州市自分史文学賞			14,341 千円	6,000 千円	裁量的経費			ア	
事業費のうち一般財源			14,233 千円						
現代美術センターCCA北九州事業			59,190 千円	11,400 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			54,190 千円						
「知の融合」に向けた文化創造都市づくり事業			8,999 千円	2,400 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			8,999 千円						
北九州国際音楽祭			40,000 千円	1,680 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			20,000 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円						

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
施策全体の事業費のうち一般財源	264,273 千円	25,140 千円
	238,732 千円	

局施策の 21年度評価	【局施策評価】 A: 大変良い状況にある B: 概ね良い状況にある C: 概ね良い状況とまでは言えない D: 不十分な状況にある
A	

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	発信力の高い芸術・文化の振興

関連計画	
事業期間	前者:平成15年度～、後者:平成5年度～
経費区分	裁量的経費・義務的経費

-2-(2)-

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・創造事業、響ホール事業)	
-----	---------------------------	--

事業の概要	何(誰)をどのよう状態にしたいのか。	【劇場・創造事業】質の高い独自の舞台作品を、全国にアピールするとともに、舞台芸術創造の発信拠点となることを目指します。 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】オリジナリティある企画公演を提供し、響ホールから高レベルの音楽文化を発信することを目指します。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	成果
		発信力の高い芸術・文化の振興	北九州芸術劇場・創造事業入場率 響ホール事業・響ホールフェスティバル入場率

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	【劇場・創造事業】 入場率 95% 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】 入場率 56%	【劇場・創造事業】 入場率 90% 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】 入場率 70%	【劇場・創造事業】 入場率 90% 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】 入場率 70%	【劇場・創造事業】 入場率 90% 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】 入場率 70%	【劇場・創造事業】 入場率 92% 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】 入場率 75%		【劇場・創造事業】 入場率 92% 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】 入場率 75%		
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		北九州芸術劇場・創造事業入場率						計画	-	年度	平成25年度
		北九州芸術劇場は、オリジナルの演劇作品等を制作し、公演しており、その入場率を指標とします。						実績	95%	内容	92%
		響ホール事業・響ホールフェスティバル入場率						達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月[21年度:執行額]						事業費	141,743 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	141,310 千円	3,660 千円		
単年度計画											

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	【劇場・創造事業】高レベルで事業を実施した結果、オリジナル作品「江戸の青空～Keep On Shackin～」では、本市を含み全国8ヶ所を縦断する30公演、17,461人という大きな成果を上げることができました。他のオリジナル作品でも大変好評を博しました。結果、入場率は95%となり、全国への情報発信を行うことができました。 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】3公演実施し、入場率は56%となりました。多くの音楽専門誌からも、コンサートの質、プログラムの先進性・オリジナリティなどについて高い評価を受けました。今後は、室内楽専用ホールとして、さらなる入場者の増加を目指すために、内容のあり方についての方策を検討していきます。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	北九州劇場・創造事業、響ホール事業・響ホールフェスティバルとともに、本市独自の質の高いオリジナル公演であるため、本市の芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業です。施策目標「発信力の高い芸術・文化の振興」に対する有効性は高いと考えられます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い	3	北九州劇場・創造事業、響ホール事業・響ホールフェスティバルとともに、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	1:低い	3	北九州劇場・創造事業、響ホール事業・響ホールフェスティバルとともに、本市独自の質の高いオリジナル公演であるため、上位施策の実現への高い成果が期待できます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	4	本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を継続的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ア	北九州劇場・創造事業は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向けて着実な取組みを進めていくことが適当であると考えます。ただし、引き続き、経済性・効率性を意識した取組みを実施する必要があります。 響ホール事業・響ホールフェスティバルは、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業であると考えています。今後については、入場率をさらに高めるため、内容のあり方についての方策を検討していきます。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	発信力の高い芸術・文化の振興

関連計画	
事業期間	平成2年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	北九州市自分史文学賞
-----	------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域文化の育成を目的として、平成2年度より「北九州市自分史文学賞」を継続して実施しています。第20回を迎える本文学賞は、ノンフィクションの一ジャンル確立に貢献し、文学振興の実績を築いてきましたが、ここ数年、応募件数は横ばい状態です。今後は新規の応募者や若年層にも働きかけ、幅広いテーマの作品が集まるよう、全国及び海外にPRしていきたいです。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	発信力の高い芸術・文化の振興			成果

目的実現の為に実施する内容【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	応募件数 398	応募件数 403	応募件数 400	応募件数 400	応募件数 400		応募件数 400		
	実施状況	成果・活動指標 (上段: 指標名、下段: 指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		応募者件数						計画	-	年度	平成25年度
		これまで、20年もの間、継続して実施してきた文学賞であるため、応募件数はここ数年横ばい状態ではありますが、今後も現状維持しつつ継続していきたいです。また、新規に応募して下さる方、現況では応募の少ない若・中年層の方にも興味をもっていただけるよう、積極的な広報活動に努めます。						実績	398 件	内容	400件
								達成度	%	年度	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度: 執行額]						事業費	14,341 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	14,233 千円	6,000 千円		
単年度計画											

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	平成21年度は第20回めの自分史文学賞を実施しました。この文学賞は平成2年度より毎年実施しており、創設以来の応募総数は8,400編を超え、自分史文学が新しいジャンルとして確立しつつあります。21年度の応募件数は398件で、昨年に比べ4件増であり、ここ5年ほどは400件程度に応募件数が落ち着いてきている状況です。また、応募作品の内訳をみると、男性76.6%、女性23.4%と圧倒的に男性からの応募が多く、応募者の最高年齢者は95歳で、60歳以上の応募者が80%を占めています。また、一度応募された方が再チャレンジするケースも増えつつあります。
-------------------	------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	応募件数は400件余りに落ち着きつつありますが、他ではあまり募集のない「自分史文学」という独自のジャンルの文学賞を全国、海外に向けて発信しており、文化振興に貢献していると考えます。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4: 高い 3: やや高い	2	全国及び海外を対象にした文学賞であるため、PRには力を入れています。PRについては、ノウハウを熟知し、より有効な宣伝を行えるよう、民間委託して実施しております。また、この文学賞の魅力のひとつとして、入賞賞金が高額であること、大賞作品は単行本化し、出版することなどがあげられますが、いずれも経費削減のために減額や廃止をすると、応募数が極端に減少する恐れがあります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2: やや低い 1: 低い	3	20回の実績を持ち、関東を中心に市外からの応募が90%を超え、全国的にも認知度がある文学賞なので、今後も「文化都市北九州」の発信のために、引き続き実施していきたいと考えています。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。		3	現在のところ、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア	ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了 応募件数は400件余りに落ち着きつつあり、今後大幅な件数増加は見込めませんが、全国的にも認知度のある文学賞なので、件数については現状維持しつつ、継続していきたいと考えます。また、事業内容については、新規や現況では応募の少ない若・中年層の方からの応募数増加につながるよう、新聞や雑誌、文筆活動を行っている様々な団体等へのPR活動を推進していきます。	

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	663-1615	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	発信力の高い芸術・文化の振興

関連計画	
事業期間	平成9年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	現代美術センターCCA北九州事業
-----	------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	CCA北九州は世界の第一線で活躍するアーティスト等と連携しながら、現代美術の研究・学習機関として独創的なプログラムを進めるとともに、国内外における本市のイメージアップにも寄与しています。一方、市民に向けた活動が相対的に弱い面もあったため、近年では培ってきたCCAのネットワークを活かした地域向け事業の強化を促進しています。引き続き他都市では真似のできない世界レベルの活動と市民を対象とした高質で多様な現代美術関連事業の実施を両輪に活動を展開していくことにより、発信力の高い芸術・文化の振興を図ります。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	発信力の高い芸術・文化の振興		成果	

目的実現の為に実施する内容 【手段】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	現代美術展覧会 開催件数 6件 一般公開事業 参加者人数 1777人	現代美術展覧会 開催件数 5件 一般公開事業 参加者人数 1600人	現代美術展覧会 開催件数 5件 一般公開事業 参加者人数 1700人	現代美術展覧会 開催件数 5件 一般公開事業 参加者人数 1800人	現代美術展覧会 開催件数 5件 一般公開事業 参加者人数 1900人				
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)							平成21年度	目標	
		現代美術展覧会開催件数					計画	-	件	年度	平成25年度
		世界の第一線で活躍するアーティストによる新作の展覧会が中心であり、同じアーティストにより制作されるアーティストブックの出版と合わせ、国内外の現代美術関係者からの注目も高いものとなっています。継続的に実施することによりアーカイブとしての力も増すため、現在の開催件数を維持できるよう努めます。					実績	6	件	内容	5件
		一般公開事業参加者人数					計画	-	人	年度	平成25年度
CCAの持つ人的・組織的ネットワークを活かし、本市ではなかなか体験できないようなアーティストや美術関係者による市民向けの事業を開催しています。子どもから大人までより多くの方が参加できるよう、多彩なプログラムを展開していきます。					実績	1,777	人	内容	1900人		
達成度					%						
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	59,190	千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
						うち一般財源	54,190	千円	11,400 千円		
単年度計画	(この欄は空欄で構いません)										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度は、開設以来継続する世界の第一線で活躍するアーティストによる展覧会の実施やアーティストブックの出版などに注力するとともに、地域に向けた公開事業も積極的に実施しました。ここ数年連続(現代アート界を巡るバブル的状況が影響し、著名なアーティストの招聘は日程的、金銭的に相当厳しい状況になっているため、招聘アーティストの選定に当たっての事前調査を徹底し、将来有望な若手アーティストに重心を置いたプログラムを進めた結果、多くの展覧会等を開催することができました。また、一般公開事業では、特に市民美術大学美術講座が安定した集客を得、アンケートにおける満足度も極めて高いものでした。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	CCAのグローバルな活動スタイル及び、現代美術の研究・学習機関であるアートセンターという形態の文化機関は、全国的に見ても類似事例が見当たらず、文化行政における他都市との大きな差別化要因となっていると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	開設以来10数年のハイレベルで地道な活動の結果、国内外においてCCAの組織ブランドとでもいえるような強みが現れてきています。そのため、内外の一流のアーティストや美術関係者ともCCAの各種事業に対し利益や採算などを度外視した協力や支援を得られるような信頼関係を築いています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	近年、同時代のアートやクリエイティブな分野に対する世間一般の関心が非常に盛り上がっている状況があります。雑誌等のメディアでの露出、アーティストと企業や地域との連携も進んでいます。数ある文化ジャンルの中でも、現代美術に対しては特に追い風が吹いている状況にあると考えます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	収益事業ではないため、市をはじめとする公的なセクターによる支援は必須です。市が支援に関することで、市政テーマや市民の多様な文化的要求に対し、これまでの充実したアーカイブやネットワークを活かした取組みが期待できます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は施策に対する有効性も高く、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で重要な事業であると考えています。現代美術という狭い分野ではありますが、国内外において確立した知名度と評価も活かしながら、より効率的な運営のもと、本市の独創的な文化機関として、引き続き、着実な事業実施を推進します。また、CCAの蓄積やネットワークについても、市政テーマや市民に還元していく視点を持った運営を心がけていくことで、専門的でハイレベルな活動と市民に開かれた事業の両立を目指します。

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	663-1615	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根づき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	発信力の高い芸術・文化の振興

関連計画	
事業期間	平成13年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	「知の融合」に向けた文化創造都市づくり事業
-----	-----------------------

【事業の概要】	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	現代美術の研究・学習機関であるCCA北九州は、国内外の美術関係者や専門家の間での知名度や評価は高いものがありました。その貴重な知的財産をいかに有効に活用していくかが問われていました。そこで、「知の融合に向けた文化創造都市づくり調査」を行い、「CCA-LAB構想」を策定し、新たに「コラボレーション(分野を超えた融合)」「インキュベーション(人的育成)」「パブリック・リレーションズ(市民交流)」という3つの機能を同時に果しながら、CCAの活動の理念を本市から広く世界に発信していくものです。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	発信力の高い芸術・文化の振興	成果	

【目的実現の為に実施する内容】	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	BTG?(ブリッジ・ザ・ギャップ?)事業の開催 ニューヨーク/北九州	BTG?(ブリッジ・ザ・ギャップ?)事業の開催 グラナダ/北九州	BTG?(ブリッジ・ザ・ギャップ?)事業の開催 ベルリン/北九州	海外1都市/北九州	海外1都市/北九州		海外1都市/北九州		
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		BTG?(ブリッジ・ザ・ギャップ?)事業の開催						計画	-	年度	平成25年度
		国内外の各分野の一流の専門家の参加のもと、分野や地理的な隔りを超え、時間を経て発展しうる対話を生みだし、定期的に関われる場を通じ、新たな知の領域を切り開いていこうとすることがBTG?事業の目指すところです。実施にあたっては、海外の文化機関との連携や本市での市民交流を積極的に推進します。						実績	事業実施	内容	事業実施
						達成度	%	年度			
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	8,999 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)		
						うち一般財源	8,999 千円	2,400 千円			
単年度計画	(この欄は空欄で構いません)										

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度は米国ニューヨークでアーティスト、学者、建築家、デザイナーなどをえたシンポジウム、レクチャーなどを行いました。実施に際しては、共同企画者である現地の「ストアフロント・ギャラリー」と連携しました。一方、本市では都市計画デザインの専門家であるデモン・リッチ氏をコーディネータに、国内の建築系大学研究室の協力を得て本市のまちづくりのあり方とその変化についてのワークショップ及び公開レクチャーを行いました。専門分野や地理的な隔りを超え、既存の方法論に依拠しないスタイルでなされる創造的な対話は、参加者相互に大きな刺激を与えるとともに、本市発の意欲的なプログラムとして内外への発信効果も高いものがありました。

【事業の再検証】

評価	有効性	この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	CCAの人的・組織的ネットワークを活かしてなされる大変独創的なプログラムであり、特に海外のアートシーンに対するCCA及び本市のPR効果は、継続的に開催することで累積的な効果が期待できます。予算的な制約もありますが、シンポジウムなどにおける議論について書籍化やサイト上での発信を進めれば、さらなるPR効果が得られるものと思われま。
	経済性・効率性	同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	同事業のこれまでの開催実績やCCAのネットワークを最大限に活用しているため、各分野の第一線で活躍する参加講師やパネリストへのコンタクトや連携を非常に円滑に進めることが可能です。また、海外での事業については、毎回現地のアート関連機関・団体と連携し、財政的支援も得ながら実施しています。
	適時性	今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	分野横断的で学際的な議論を進めることで知の新領域を開拓していこうとする本事業の狙いは、知識・情報社会における都市間競争が進展する中、大変時宜を得た事業内容であると考えます。
	市の関与の必要性	実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすことはできないのか。	3	本事業は本市のシティ・プロモーションとしての意味合いも高いものがあります。しかしながら、特に海外での事業については、本市に留まらないより幅広く、巨視的なレベルでの活動になりますので、実施にあたっては、国等の支援を検討する余地があると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	本事業は「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で重要な事業であると考えています。特に海外において一流のアーティストや研究者が参画しながらのソフト事業を本市が主催、コーディネートしていくという事業スタイルは、本市の他の施策にはないため、事業開催都市や海外において、本市の創造的な都市としてのシティ・プロモーションに大きな効果を発揮しているものと考えます。今後は、本市における事業実施などを通じ、本事業の意義を発信していくとともに、この創造的な議論が本市の都市活力の向上に結びつくような方向性についても検討を進めてまいります。	

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	文化振興課
連絡先	582-2391	

基本計画	柱	暮らしを彩る
	大項目	生活に根つき、誇れる文化・スポーツの振興
	取組みの方針	芸術・文化の振興
	主要施策	発信力の高い芸術・文化の振興

関連計画	
事業期間	昭和63年度～
経費区分	裁量的経費

-2-(2)-

事業名	北九州国際音楽祭
-----	----------

【目的】 事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は、「総合音楽祭」の確立、芸術性の追求・発信、「北九州らしさ」の創造、顧客満足度の向上、若者世代の取り込み、情報発信の強化を掲げ、その実現を目指して取り組んでいます。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	発信力の高い芸術・文化の振興	成果	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	年度					計画変更理由	
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
【手段】	当初計画		入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%		
	現状	入場者数 11,113人 満足度 83%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%	入場者数 11,500人 満足度 85%		
【手段】	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)				平成21年度	目標	
		北九州国際音楽祭の入場者数			計画	-	年度	平成25年度
		本事業のプログラム 有料プログラム、教育プログラム、特別プログラム、協賛事業の入場者数を指標とします。			実績	11,113 人	内容	12,000人
		北九州国際音楽祭の満足度の割合			計画	-	年度	平成25年度
【手段】	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	40,000 千円	事業にかかった 人件費の目安(21年度)	
					うち一般財源	20,000 千円		1,680 千円
【手段】	単年度計画							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	ドイツの名門オーケストラ・ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団によるコンサート、本市出身等の演奏家によるオープニングコンサート「ガラ・コンサート」、海外の国際ピアノ・コンサートで、日本人で始めて優勝した盲目のピアニスト・辻井伸行氏のコンサートなどを実施し、入場者11,113人を集め、83%の入場者(有料コンサート)が「良かった」と回答しており、大変好評でした。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	北九州国際音楽祭は、質が高くオリジナリティあるコンサートを実施しており、本市の芸術・文化のけん引力となる事業であるため、施策目標「発信力の高い芸術・文化の振興」に対する有効性は高いと考えられます。
	経済性/効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。		3	市の外郭団体が実行委員会の事務局を担っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、現状よりもさらに経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	本市を代表する音楽イベントである国際音楽祭は、歴史もあり、知名度もある音楽を継続的に実施しないと今までの積み重ねが無くなってしまいます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。		4	本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を継続的に実施できる純粋な民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ		国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業であると考えています。今後も目標の達成に向け着実な取り組みを進めていくことが適切であると考えています。ただし、引き続き、事業規模や実施方法など工夫した取り組みを実施する必要があると考えています。